

私たち親は、必ず障害のあるわが子に見送られるときがきます。その時に制度や地域など、子どもたちを支えるものがあれば、みんなが安心して暮らせる。…そして周りを見ると、…困っているのは私たちだけではないと気づく。だから私たちの困りごと、地域の困りごと、同じ土壌で考えて、いろいろな人と関わりを持ちながらネットワークを作って一緒に問題を解決していく活動をできたらいいですね。…(略)

久保: (略) …大野さんが、親は親でまったりして過ごしてほしいと言ってくれたように、親も自分の人生をもう一回見直しましょうと言いはじめています。子どものことは気になるし、その活動はするけれども、一方で自分の人生もちゃんと見直して、よかったねと思える人生を歩みましょう。頑張るときにはみんな手をつないで頑張る。けれども、自分の人生もちゃんと謳歌しようよ、というような。

大野: 本当にそう思います。お母さんたちは自己実現しないと、子どもたちが自己表現するというような気はするんです。

久保: 知的障害のある子の親は、子どもを一人の人格のある人として考えられなくなりがちです。わが子の人生を支えていくことも大事だけど、一方で自分の人生のこともちゃんと考えないと駄目なんです。

うちの息子は重度だから親がどういう生き方をしているか、ひょっとしたら理解できないかもしれない。でも、あなたのことも頑張ったけれども、お母さんはお母さんで自分の人生こんなふうにしたよというのは、よかったなと思ってもらえると思う。私たちみんなそうならないと駄目かなって思いますね。

又村: まさに親の会という観点からは、そこが一番大事なことです。

「全日本手をつなぐ育成会 創立60周年記念誌『夢』が発売されています」

2012年に全日本手をつなぐ育成会では創立60周年を記念して『夢』が作成されました。

この記念誌では、運動団体としての存在意義も改めて問われているなか、これまでの歩みを振り返るだけではなく、親の会運動の原点に立ち戻り、これからの育成会における次の10年に向けての「夢」や「願い」なども記しながら展望しています。

記念誌はB5サイズ定価3,150円(税込)で162ページ構成です。購入希望の方は全日本手をつなぐ育成会までお電話(03-3431-0668)、ホームページ(<http://www.ikuseikai-japan.jp>)、

でお問い合わせ下さい。

近畿ブロック魅力ある事業所づくり研修会が開催されました
東成育成園 管理者代理 杉本 伸一

平成26年2月16日(日)に大阪市長居障がい者スポーツセンターにおいて「本人の意思決定に配慮した住みやすい地域へ」というテーマで近畿ブロック魅力ある事業所づくり研修会が開催されました。

当法人の小泉理事長の開会宣言で幕が開き、近畿手をつなぐ育成会連絡協議会の小原会長の開会后、全日本手をつなぐ育成会の久保理事長から中央情勢報告として障害者総合支援法の主な改正点をご説明いただきました。

その多くの報告の中の一つで“今後、障害者総合支援法の附帯決議も踏まえ、「高齢の障害者に対する支援の在り方についての検討」を進めていくことを講じていく。”という報告がありました。その時、今まで関わった親御さんの「私たち親が死んだ後のこの子らの高齢化した時が不安で安心して死ねない。」という言葉がよみがえりました。一刻も早く安心できるように講じていただきたいと願うものでした。

そして、京都光華女子大学の佐々木教授の基調講演「現場で活かせる意思決定支援」では、学生時代に所属していた落語研究会で笑福亭鶴瓶氏とご親交があったという、楽しいエピソードを交えた自己紹介から始まりました。



講演を聞くに当たり、今までの自分が行ってきた支援の中でどのくらい自己決定を尊重できていたか?と考えました。障がいの重い方で自ら発信できなかった方、軽い方でも間違った方向へ行きそうな方に支援員や家族の選んだベスト・ベターを押し付けていなかったのか?…

講演の中で『「自己決定」と「代行決定」の間に「支援された意思決定」という新しい考え方が生まれた。